

## 第3期生駒市食育推進計画 第3回策定懇話会 記録

### 【開催概要】

○日 時：平成29年11月30日（木）14:00～16:00

○場 所：生駒市メディカルセンター 3階研修室

○出席者：

天野信子 松井英人（欠席） 佐々木昇 吉川萌 藤尾庸子 岡島保弘 荻原佐久雄  
井上良作 清水綾 山中治郎 桑田恵美子 諸熊えい子（欠席） 牧香奈子 溝口雅代 蒔崎忠雄

[事務局]

影林洋一福祉健康部長 増田剛一次長

健康課：吉村智恵 川島光 大谷幸代 村田陽子 松名美幸 山崎悟 山田憲司

委託業者：(株)地域計画建築研究所（アルパック）大阪事務所 武藤健司 片山麻衣

### 【議題】

- (1) 第2回策定懇話会の振り返り・補足説明等
- (2) 計画の素案について
- (3) 意見交換
- (4) 次回の日程・今後の予定など

### 【議事内容】

#### 1. 開会

開会にあたり、影林部長が挨拶を行った。

○影林氏（生駒市福祉健康部長）

今回、早いもので第3回目の懇話会であり、これまで皆さまに貴重な意見をいただき、感謝したい。第1期、第2期計画では、食育の啓発、実践を基本理念として掲げているが、第3期計画では関係団体等とのつながりを広げることが大切だと実感している。

今後は、本日の意見を踏まえ、計画を確定し、議会への報告後、12月中旬からパブリックコメントの予定である。本日もよろしくお願ひしたい。

#### 2. 議事

議事にあたり、事務局より懇話会公開に関する意向確認を行い、公開とすることを決定した。

（傍聴人は無し）

- (1) 第2回策定懇話会の振り返り・補足説明等

事務局より、資料1の説明を行った。

- (2) 計画の素案について

事務局より、資料2、3の説明を行った。

### (3) 意見交換

<施策体系（次期計画で取り組む施策）について>

○井上氏（奈良県農業協同組合（生駒支店））

現在、保育園・幼稚園、小学校では、プランターでの稲の栽培を行っているが、本格的に田で実施することで、より学びが広がると考えている。

○藤尾氏（生駒市健康づくり推進員連絡協議会）

収穫体験を受け入れる農家の人材確保が難しいだろう。伝統料理においてもそれを伝える次世代の人材が減少しており、人材の育成が課題である。

食に関するイベントでは、食中毒など衛生面での課題により、中止になる場合がある。学校等と連携し、衛生管理等を研修する体制づくりが必要である。

市内で市民団体等と連携した食に関するイベントは開催されているのか。また、開催されていた場合、そのイベントに懇話会メンバーは関わられるのか。

○事務局

現在、市内の環境に関するイベントと連携して実施する予定である。また、今後は子育てに関するイベントとの連携も検討しており、イベントごとに関係団体等との連携を予定している。

○山中氏（生駒市校長会）

各学校では、プランターでの稲の栽培、学校周辺での田を借りて米作り等を行っている。収穫時には、生産者等を招待し、おにぎりを一緒に食べるなどのお礼の会を開催している。

学校の周囲に田んぼがないところでは借入が難しいが、田植え、稲刈り等の経験が子どもたちにはとても大切である。

○糸田氏（生駒市保育会）

以前、勤めていたひがし保育園では、地域の方に協力いただき、園の花壇に水をはり、田植え、収穫体験を実施した。できたお米は中の様子が見えるガラスの鍋で炊き、子どもたちからも「こんなに美味しいお米は初めて食べた」と大変好評であったが、保育士の人手不足等もあり、保育園だけでの継続的な実施は難しいと実感した。今回、委員の皆さまとつながることができ、今後できることもあるのではないかと考えている。

○井上氏（奈良県農業協同組合（生駒支店））

現在、生産者の高齢化が進み、遊休農地が増えていることが不安である。農地を守るための担い手の確保、育成が重要である。

○藤尾氏（生駒市健康づくり推進員連絡協議会）

伝統料理を次の世代へ引き継ぎたいが、今の世代は伝統料理を日常生活の中で食べたことがなく、経験がないため、伝え方が難しい。行政に協力いただき、地域の食文化を伝える講習会などを開催していけたらと考えている。

○天野座長（甲南女子大学）

行政だけでなく、地域住民とのつながりにより食育の取り組みを実践することが重要である。

○藤尾氏（生駒市健康づくり推進員連絡協議会）

「食育ラウンドテーブル」の会長として、第3期計画の推進体制に「食育ラウンドテーブル」に

ついて、多く記載いただき、感謝したい。「食育ラウンドテーブル」では、閉会後に餅を焼き、皆で食べる、参加者が活動したい内容を皆でレポートするなど、仲間意識を深める活動が自然にあり、チームワークが良いと感じている。食育活動を広げるためには、こういった人と人とのつながりが大切である。

○牧氏（市民）

私が主催している料理教室等は、フェイスブック、インスタグラムで知り、参加される方が多い。情報発信は、SNSなど日々発信できるツールでの情報発信が重要である。

○蒔崎氏（市民）

60～70歳代では、食塩の摂り過ぎに気をつけることが共通認識である。最近の食品表示は、例えば、食塩はナトリウム量という表記になっているなど、分かりづらい。新しい情報を分かりやすく発信してほしい。

○岡島氏（生駒市PTA協議会）

SNS中心で情報発信した場合、食育にもともと興味がある人が検索するため、興味がない人たちには伝わらない。そういった人たちにも興味を持ってもらう情報発信が必要だと思う。

○天野座長（甲南女子大学）

情報発信はライフステージに応じた方法が大切である。また、関心のない人にどのように伝えるかを考える必要がある。

○荻原氏（生駒商工会議所）

商工会議所が主催するイベントにおいて、食育ブースを設置し、パネルの展示等を行うことは可能であり、協力できると思う。

○事務局

すでに、市内中学校の文化祭等でパネルの展示を行っている。ぜひ商工会議所と連携し、様々な場面で活用したい。

○溝口氏（市民）

たわわ食堂では、さんまの塩焼き作りなど、「食材をシンプルに味わう楽しさ」を感じるイベントを多く開催した。

より多くの方に参加して欲しいため、現在は子どもがいる家へのチラシのポスティングなど、地道な活動を行っているが、時間、労力がかかる。学校を通じて情報発信などができれば、保護者が目にする機会が増えると考えている。

○山中氏（生駒市校長会）

学校を通じた情報発信への要望はすでに企業等からも多くあり、実施が難しいこともあるが、行政から食育に関する取り組みについて校長会を通じた依頼もあるため、今後、さらに連携を深めていけたらと考えている。

○事務局

食育に関する情報発信は、学校と協働していければと考えている。

○岡島氏（生駒市PTA協議会）

学校やPTAからの情報発信は、食育に限らず、すでに多く実施されている。配布物が多い場合、保護者からすべて不要だと認識され、見ずに捨てられてしまう場合がある。例えば、紙の色を変え

る、多くの情報を記載せず、URLだけを大きく掲載するなど、工夫して伝える必要がある。

<基本理念について>

○佐々木氏（生駒市歯科医師会）

A案の「育てる」という言葉は、子ども中心の表現に感じる。B案またはC案がよいのではないか。

○吉川氏（奈良県郡山保健所）

B案の「健康”いこま”」という言葉がいいと思う。また、C案の「つながる」という言葉は、第3期計画の方向性に合っているだろう。

○清水氏（いこま育児ネット）

B案またはC案が良いと思う。現在、SNSが普及しているため、C案の「つながる」という言葉が第3計画に合っているように思う。

○岡島氏（生駒市PTA協議会）

C案が直感的に分かりやすく、「つながり」という言葉が入っていることが良い。

<その他について>

○天野座長（甲南女子大学）

終わりの時間が迫っているが、最後に何か言いたいことがあれば、意見をお願いしたい。

○藤尾氏（生駒市健康づくり推進員連絡協議会）

最近、個人どうし、地域間でのつながりが弱いと感じる。食事を一人で食べる方もおり、つながりがない寂しさで不健康になることもある。食育は人との関係が基本であるため、「つながり」を重視した計画にしてほしい。

○山中氏（生駒市校長会）

最近、学校では、地域の方と一緒に運動会、農業体験を行うなど、地域とのつながりが多くなっており、つながることは大事だと感じる。その地域とのつながりの中に保護者を巻き込み、次の世代につなげたいと考えている。

○天野座長（甲南女子大学）

現在、食育計画は農林水産省の管轄になっており、ホームページ内で国全体の動向も見られるため、取組事例など活用できるヒントがあるだろう。ぜひ、活用いただきたい。

（４）次回の日程・今後の予定など

12月16日～1月15日がパブリックコメントの予定であり、第3期計画案を市ホームページ等で公開し、広く市民から意見をいただく。その結果を踏まえ、再度検討いただく必要が出てきた場合は、2月8日での開催を予定する。再度集まる必要がない場合は、第3期計画の確定案を送りたい。

以上